

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	3271800454		
法人名	医療法人 仁寿会		
事業所名	グループホームかわもと「あいあいの家」		
所在地	島根県邑智郡川本町川本376-4 (電話) 0855-72-2950		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成20年12月18日	評価確定日	平成21年1月20日

【情報提供票より】(平成20年11月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 2人, 非常勤 9人, 常勤換算5, 2人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2階建ての	2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	5,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(11月30日現在)

利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	2名	要介護2	3名
要介護3	4名	要介護4	0名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 89,6歳	最低 80歳	最高 98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	加藤病院・仁寿かわもと診療所・原田歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人の地域医療・介護に対する明確な方針のもとで、「あいあいの家」は看護の原点としての大切な役割を持ち、可能な限り自立した生活を続けることを目標として、利用者が生き生きと生活できるように支援している。記憶障害改善の事例研究を行うなど職員育成に力が入れられ、地域への啓発活動も積極的に取り組んでいる。利用者は一日に2回買い物に出かけたり、近所の家でお茶会をするなど、地域の人と交流しながら生活している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	①家族等への報告 ②運営に関する家族等意見の反映③事業所の多機能性を活かした取り組み、が課題であった。①については改善され、②③については継続した課題になっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回、100項目が評価しやすいように独自に「自己評価チェックシート」を作成し職員全員で取り組んだ。職員は自己評価の取り組みが気づきや日々の実践の反省につながったと考えている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	活動報告、外部評価報告、防災関係等を話し合い出席者との関係も密接になってきている。この会議を通じて地域の見守りや支援体制が出来、ホームからのお願いに対し具体的な提案があるなど積極的に協力が得られている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日ごろの面会時に意見・要望を聞いたり、遠方の家族からも意見を聞くことに努めている。家族から相談を受けることもあるが家族からの意見は少ない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域行事への参加や商店、保育所、学校などとの交流、「物忘れ相談室」の開催など積極的に地域との連携を図っている。「在宅親子のふれあい」では、世代を越えた交流もある。地域行事に参加できない時、オードブルの差し入れがあるなど地域との関わりが深くなってきている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時から「地域との出会い、人との出会い、ケアとの出会い」を掲げ、地域密着型として医療と介護の連携を目指した理念の実現のため日々努力している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の唱和や日々のミーティングで確認しあい、職員共通の合言葉として共有しながら日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「物忘れ相談室」の開催、在宅親子とのふれあい、保育所や学校との交流など地域との連携に力を入れ、地域行事への参加や近所の人とのつきあいなど確実に交流が広がっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回から独自のチェックシートを作り、時間をかけて全職員で取り組んだ。職員はこの取り組みが日々のケアへの反省や気づきにつながったと考えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告、外部評価報告、防災訓練等、さまざまな事が議論され助言や要望は運営に活かされている。ホームからのお願い事にも積極的な協力が得られている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議、郡介護保険運営委員会に出席し情報収集や意見交換を行っている。町の職員の訪問があつたり、退居者のことで相談するなど日常的に連携が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、便りや利用料の領収書と合わせて利用者一人ひとりの近況を手書きで書き加えて送り、家族から楽しみにされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や意見箱等で要望・意見を聞いている。家族から相談を受けることがあるが、意見や要望はあまりなく運営に反映するまでには至っていない。	○	さらに家族の声を引き出す工夫を検討していただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人として離職や異動による影響を少なくするための対策が講じられていて、馴染みの関係を築いてからの異動や、顔なじみの関係ができて同じ部門内での異動など配慮されている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人運営者自ら先頭に立ち、地域医療、介護への人材育成を目的とした人事制度を導入し積極的に職員育成に取り組んでいる。国内外の研修生の受け入れや研究発表など計画的に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山陰認知症ケア研究会、小規模ケア連絡会に参加し交流を図っている。町内の数箇所の同業者と行事を通して交流を行っている。	○	さらにサービスの質の向上を目指し、職員レベルでの相互訪問の実施など実現させていただきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前2週間マニュアルがあり、本人、家族に見学をしてもらったり、自宅へ面接に出かけて行くなど、見て、聞いて、情報を少しでも集め、時間をかけてゆっくりと入居へとつなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑作りや料理の方法など、利用者の得意な分野や豊かな経験で培われた知識を教えられている。利用者の昔の話を聞いたり、悲しみなどの感情を理解し、喜怒哀楽の共有に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションに努め、日々の会話や行動の中から、本人の思いを引き出すよう心がけている。新しい発見については、随時個別ファイルに追加記入しケアに活かされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全職員に計画の希望を書いてもらいリーダーがまとめ、管理者が家族の希望・要望を確認しながら計画を立てている。遠方の家族からは電話や文書で聞き取りを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個別の介護シートが作られており1ヶ月ごとに見直し点検がなされている。日々の記録、連絡帳などに記載され、定例のケア会議、職員会議で話し合いがなされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算をとり日常的に健康管理をしている。本人、家族の要望に応じて、外泊、外出など柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅療養支援診療所の訪問診療を利用して往診が行われている。かかりつけ医の継続に努め、変更する場合も利用者、家族が納得する支援が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化対応・終末期ケア対応の指針が作られており、それに基づいて家族、主治医、職員が相談し今後の方針が決定されている。異常時には夜勤職員を複数にし対応したこともある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	更衣は居室で行ったりトイレ誘導も大きな声を出さないなど、プライバシー保護に細心の注意を払っている。倫理規定・個人情報保護指針により職員に対し適切な指導が行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「手を出すな、目を離すな」を合言葉に、利用者のペースを尊重した支援がなされている。食後の団欒や読書など、利用者は自由に過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立決め、買物、準備、片付けまで職員と一緒にに行い、季節感のある食事や弁当の日など工夫し「食」を重視した取り組みをしている。会話を楽しみながら和やかな食事場面だった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴が可能で、夜間の入浴体制が確保されている。入浴の嫌いな人もタイミングや声かけを工夫し支援している。医師の協力を得ることもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、新聞取り、掃除、配膳、接待、趣味活動など好きな事、得意な部分を大切にしてい、主役になれる場面がある。毎年実習に来る医学生を心待ちにし張り合いをもって生活している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	午前・午後の食材の買い出し、ドライブや散歩、喫茶店でのコーヒータイム、近所の家でのお茶会、利用者同士の外出など、日常的に外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ施錠し、昼間は開いていて自由に入出りできる。職員は利用者の所在や様子を把握し安全を確認している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルがあり、年2回、消防署立会の防災訓練が実施されている。自治会との協力体制も出来ていて近所の人々の支援協力も話し合われている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量が把握されており入居者の状態や体調に合わせて支援されている。毎月法人の管理栄養士の指導も受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体が明るく、こたつやソファなど日当たりのいい場所に設置してありゆったりと過ごせる場所がある。トイレや浴室のドアの色分けをしたりクッション性のある床材を使用するなど優しい環境作りをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具が持ち込まれており、壁には家族の写真や自分の作品が飾られ、それぞれの利用者の状態あわせた居室になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。